

不思議の国、イラン紀行

中川啓造（会員）

はじめに

イランと聞くと、どんなイメージが湧きますか？
まずペルシアじゅうたんが一般的だと思います。

サッカーの好きな方は、アジアNo.1の実力国で2018年ロシアで開かれるワールドカップ世界大会にアジアで一番最初に名乗りを挙げた国。

野球ならば、米大リーグで活躍する、ダルビッシュ有のお父さんがイラン人。

政治に関心がある方は、イスラム教シーア派の盟主。

また、歴史に興味がある人ならば、世界最古の文明で4大文明の一つであるメソポタミア文明の発祥地であるイラクの隣りに位置し歴史と伝統のある国。
そんな中で僕がイランに興味

をもったキッカケは、2年程前に行ったモロッコの途中経由地であるドーハ空港で出会った、顔から足元まで黒づくめでおった（チャドルという衣服）女性でした。どちらの国の方ですか、と尋ねたら「イラン」と言われ、が然

そんな所かと思われ、興味をもった次第です。

そこ

で、かの地を見たくなり、

早速航空券を手配し、この1年間で2回訪ねました。この2回で主だった所はほとんど見て回りました。



チャドルを着た女性たち

そして感じたこと

1. 公の施設に行くとき、必ず最高指導者であるハメネイ師とローハニ大統領の肖像画が正面に並んで大きく飾ってありました。

帰国後調べてみると、政治が二頭立てによって行われており、専門家会議によって選出された最高指導者が国の全般的政策方針の決定と監督について責任を負い、こちらは終身制で任期はないとのこと。また、国民による直接普通選挙によって選ばれた大統領は、最高指導者の専権事項以外で、執行機関たる行政府の長として憲法に従って政策を執行する、とのこと。任期は4年で3選はダメとのこと、要は、国の重要な根幹をなす政策は最高指導者が決め、大統領はその決定に従って補佐をして仕事をを行う、ということなのです。

2. イミグレーションでの出入国管理。
イランに入るにはビザが必要なのですが、僕は空港でアライ

バル・ビザを申請してもらいましたが、その際、ビザ代他に国内旅行保険代としてそこそこのお金をドルもしくはユーロ払いで取られました。外国へは250〜260回行っているのですが、初めてのことです。これは恐らく欧米の経済制裁によって経済が疲弊した結果外貨が足りなくなり、その埋め合わせをするために入国する外人から税金として徴収しているのではないかと考えられます。僕は2回目の入国の際、日本で加入した旅行保険の写しを英語版で提出しても認められませんでした。

3. 旅行者、特に日本人に対しては非常に親日的でした。たとえば、名所旧跡を訪ねている途中迷子になり、歩いている人に道を聞くと現地まで案内してくれました。

また、街で人だかりがしているアイスクリーム屋のそばに立っていたら、買いに来た女性が僕のものを買ってくれたことがあります。ただし、油断大敵。古都エスファハーンで昔の公衆浴

場跡へ行った帰り、泊まっているゲストハウスへの道が分からなくなり、折よく居合わせた2人連れのバイクに同乗したところ、人気がない所へ連れて行かれ身の危険を感じたので、急いで防犯ベルを鳴らし事無きを得ました。

4. 2とも関係するのですが、1988年に終了したイラン・イラク戦争後、イラン国内では不景気のため仕事がなく、たまたま日・イが取り決めた相互免除ビザのため日本で働くことが出来、かなりのイラン人の方が日本で職を得ることが出来ました。丁度、上野公園でのイラン人による偽造テレカの販売が話題になった頃です。その結果、日本語に堪能な中年男性が増え、街を歩いていると結構日本語で話しかけられることが間々ありました。

5. イスラム教を国教としていいる国ですから当然至る所にモスクがあり、1日5回は必ず聖地メッカに向かって礼拝をしていました。イスラム教信者数最

大の人口を誇るインドネシアと比べてみると、その点は徹底しているように見受けられました。

6. 5に關係することですが、この国の権力者はイスラム教という宗教を国を統治する上でうまく利用しているな、という感じがしました。1日5回の礼拝によって人々の不平、不満をガス抜きをし、聖地マシュハドへの巡礼（1日10万人以上の参拝者）、そして年何回かの宗教的行事、2016年に訪れた際には「アシュラ」という殉教者を崇める行事にたまたま出くわしました。街の道路の目につく所にジハードという聖戦で身をささげた男の人が大きな顔写真の立看板で飾ってありました。



街で見かけた殉教者の立看板

たまたま公園で出会った若者に話しかけたところ、「この国

で生活するのは息苦しい、外国で住みたい」という人が何人もいました。

7. アルコールが禁止されている禁酒のこの国では、ストレス解消の方法として庶民は、①休みの日には公園などの空き地で家族・知人が集まってバーベキューをよく行っており、僕はエスファハーンで土曜の午後、公園を歩いていたら見知らぬイラン人に呼び止められ、BBQをご馳走になりました。



BBQをしていた家族にご馳走になった

②各都市にあるバザールには夜間ないしは休日の日家族そろって出かけ、ショッピングを楽しむ人たちがにぎわっていました。③イラン人は甘い物が大好き。街の到る所に洋菓子店があり、歩きながらソフトクリームを頬

張る人が多く見られました。その影響か、生活習慣病予備軍と思われるメタボの方がたくさん見受けられました。

おわりに

先般、アメリカ大統領トランプがエルサレムをイスラエルの首都として認めアメリカ大使館を、今年2018年5月中旬に移転すること。また2月中旬、イスラエルのネタニヤフ首相がドイツのミュンヘンで開かれていた安全保障会議で演説し、イランへの先制攻撃をすると公言しました。どうやらこれが発火点となって、いざれ第5次中東戦争が、イラン+パレスチナ+V S イスラエル、サウジアラビア間で起きる予感がします。時期はズバリアメリカ中間選挙の前、10月ごろが可能性あり。単なる杞憂で終わればよいのですが、もし起こったら一大事。イランに関心のある方は、今の内にかの国へ出来るだけ早く訪問されることをおすすめします。

合掌